

令和5年度 ケアマネSAKAI研修会

妖怪人間ベムは永遠に笑わない

～生きる意味は間（あわい）に～



日頃の業務の中で、「楽しみは何もない」「早く迷惑かけないで死にたい」という発言を聞いたことはないでしょうか？かける言葉に迷うような利用者の苦悩を、話を聞くことを生業にする私たちケアマネは、どう受け止めていけばよいのでしょうか。

今回はケアマネジャーを中心として、医療・福祉職向けに利用者や家族の心理を理解するための研修を企画しました。京都大学大学院人間・環境学研究科 研究員 の佐藤泰子氏をお迎えし、アニメや文学をモチーフに、エネルギッシュで軽快な語り口で「苦しみとは何か」「生きる意味とは何か」を分かりやすく解説していただきます。

佐藤泰子（さとうやすこ）氏

2009年京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士課程修了 京都大学博士（人間・環境学）取得

現在、京都大学大学院 人間・環境学研究科 研究員

京都大学，京都看護大学，聖泉大学，京都経済短期大学，

沖縄県立看護大学，大阪人間科学大学等で死生学，医療倫理，

コミュニケーション論、研究方法論，精神医学史等の授業担当



コミュニケーション，ケア，倫理，死生などを研究していくなかで「人が苦しいとはどういうことか」についての解明が必要であることに気づく。そこで「人はなぜ苦しみ，そこからどのようにして新しい1歩を踏み出すのか」を構造的に理解するためのシエマ「苦しみと緩和の構造」を構築した。「苦しみと緩和の構造」、哲学、倫理学、死生学をもとに援助のあり方を探っている。